

神戸市小学生の男女共同参画意識調査報告書

兵庫県男女共同参画推進員神戸地域連絡会議

ドマソーラ神戸小生意識調査グループ

はじめに

「男女共同参画白書」《内閣府 2008 年（H20 年）版》には「共働き家庭は年々増加している」「妻の就業の有無にかかわらず、夫が家事や育児、介護などにかかる時間は妻と比べて著しく短い」と記載されています。

男女が互いに人権を尊重しつつ、能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現のために、「男女共同参画社会基本法」が1999 年（平成11 年）に施行されましたが、男女共同参画に関する意識は変わってきたのでしょうか。

男女共同参画に関する意識は、兵庫県内においては、2002 年（平成14 年）と2005 年（平成17 年）に「子どもの男女共同参画意識と自尊感情について」（兵庫県立嬉野台生涯教育センター）、2005 年（平成17 年）に「男女共同参画社会に向けての高校生アンケート」（兵庫県男女共同参画推進員連絡会議・阪神南）調査が実施されました。その中で、いまだに「男は仕事、女は家事育児」というような性別による役割分担意識から脱しきれていない実態が発表されました。

私たちは、2007 年（平成19 年）に、神戸市内小学6 年生の男女共同参画の意識がどのようになっているのか実態をとらえることを目的としたアンケート調査を実施しました。兵庫県立嬉野台生涯教育センターの調査を参考にしたことから、同じ質問箇所（5～8、お手伝い、大人から言われること）があります。同じ小学6 年生どうしの調査結果を比較することにより、地域によって意識の差があることがわかりました。

さらに、私たちは「困ったことは誰に伝えますか？」「うれしいことは誰に伝えますか？」「一緒にいるとホッとする人は？」「あなたのことを一番よく知っているのは誰ですか？」という質問とその回答を得たことにより、子どもたちとまわりの人たちの関わりが、子どもの自尊感情と大きく結びついていることがわかりました。

子どもたちの男女共同参画の意識には、家族や学校、地域の環境、現代の社会情勢が大きく映し出されています。今回の調査でも、法や制度が整備されても、それほど男女共同参画の意識は浸透しておらず、いまだに、男女とも今までの家意識や習慣、性別役割分担意識にしばられている実態が見られました。

調査に協力していただいた小学校には、調査結果の速報版を2008 年（平成20 年）3 月にお届けしました。調査結果をふまえ、このたび、報告書を作成いたしました。率直なご意見とご感想をいただければ幸いです。

2009 年（平成21 年）3 月31 日